

修士課程における教育の基本方針

教育の目的	<p>生涯学習の実践を通して、高度な総合的教養に裏打ちされた専門的学識及び知的技能を修得し、文化の進展並びに地域社会及び職場等に貢献できる人材の育成を目的とします。</p>
ディプロマ・ポリシー (学位授与の方針)	<p>【資質・能力等の養成】</p> <p>専攻する専門分野に加えて、他の分野における専門知識や技能を修得し、深く広い教養を身につけることにより、学術的な研究遂行能力、高度な職業的知識や技能に基づく総合的判断力及び様々な課題に対して自らの力で解決する能動的探究力を涵養します。</p> <p>これらの資質・能力により、地域社会や職場等、現代社会における様々な課題を自らの力で解決し、それぞれの地域社会や職場等において活躍する実践的人材を養成します。</p> <p>【課程修了に必要な学習成果(条件)】</p> <p>授業科目と研究指導科目を合わせて30単位(臨床心理学プログラムは34単位)以上修得し、修士論文等の審査及び試験に合格することが課程修了・学位取得の要件です。</p>
カリキュラム・ポリシー (教育課程編成の方針)	<p>【教育課程編成】</p> <p>修士課程においては、専門知識を修得するための授業科目と研究能力を養う研究指導を提供します。授業科目は深く広い教養の涵養を図るため、所属するプログラムの科目と他プログラムの推奨科目及び関連科目で構成しています。また、学士課程の教育課程との有機的接続を念頭に置き、修士課程に同分野における発展系の科目も開設します。研究指導は、主として論文執筆や研究方法論、学術的研究手法等の実践的コースワークを重視し、修士論文等を段階的・計画的に作成できるよう、修士課程の2年間を通じて指導します。</p> <p>【教育内容・方法】</p> <p>授業科目は、テレビ・ラジオによる放送授業の他、インターネットを活用したオンライン授業を提供します。研究指導では、対面やWeb会議システムなどにより個別ないし数人に対する指導を行います。また、各学期の後半では、研究指導教員が課題を出し、それに対する各人のレポートへのフィードバックを行う課題研究の機会、あるいは集中面接授業の機会を設けています。このようにして、いつでもどこでも学べるという柔軟性を持ちつつ、遠方に在住している学生に対しても個別指導の機会を提供します。</p> <p>【学習成果の評価方法】</p> <p>授業科目は、単位認定試験の結果により成績評価を行います。単位認定試験を課さないオンライン授業は、各回における形成的評価と、最終回後に行う達成度評価の結果を総合的に判断して厳格な成績評価を行います。研究指導は、修士論文等に対する審査と口頭試問の結果を総合的に判断して、修士の学位に相応しいか否かの成績評価を行います。</p>

<p>アドミッション ・ポリシー (入学者受 入れの方針)</p>	<p>【求める人材像】 地域社会・職場等における豊かな経験を持つ社会人や、専門領域における基礎知識を有し、学問及びその実践への応用に対する意欲と広い問題意識を持って、生涯にわたってあらゆる機会、場所において学び、その成果を生かしていくことができる学習者を求めます。</p> <p>【入学者選抜の方法】 入学者選抜は、年に1回、第1次選考と第2次選考に分けて実施します。第1次選考を実施後、第1次選考合格者に対して第2次選考を実施し、最終合格者を決定します。第1次選考は英語読解力（一部のプログラム）及び専門的知識や思考力を問う筆記試験、第2次選考は提出書類を基にした面接試問により行います。</p> <p>【求める学習成果】 学士課程卒業など、一定の要件を満たすことが条件です。</p>
---	---